# 植物【夏野菜栽培】

野菜はどうやって出来るの？

「食べられるから
見ててね～」

「大きくなーれ」
いつになったら食べられるんだろう？

【環境設定】
普段食べている野菜はどのように出来るのか疑問に感じ、夏野菜栽培を始めた。
クラスで相談し、スイカ、小松菜、茄子、きゅうり、ピーマンを育てることにした。
グループに分かれてプランターに種まき、苗植えを行った。
苗を植えた後に「お水はあげないの？」と気がついた子がいたので、水やり当番を開始し、みんなで野菜の生長を観察するようになった。

【記録】
・戸外に出ると、プランターの前に集まって野菜の観察を始める姿が見られた。野菜ごとに花の色が違うことに気がつき、保育室に戻ると『野菜図鑑』を見るようになった。
・小さな実がなると優しく触り、『ツルツル』『トゲトゲ』など感触を楽しんでいた。
・野菜が大きくなったのでハサミを使って収穫をし、給食で出ることを楽しみにする姿が見られた。野菜が苦手な子が多かったが、自分たちで育てた野菜は特別感があったようで「少し食べてみる」「これなら食べられそう」と喜んで食べていた。保護者にも収穫した野菜を食べたことを伝えると「家では食べないのに！」と驚いていた。
・茄子とピーマンは涼しくなってきた9月末より再度実がなり始め、栽培を継続している。

【振り返り】
毎日水やりをしていても、暑さから夏野菜が上手く育たずにあまり収穫が出来なかった。
実がなった数は少なかったが、戸外に出るとすぐにプランターの前に集まり、野菜の生長を観察し、気づきを共有する姿が見られたので、植物を育てる難しさを感じながらも良い経験となった。
自分で育てた特別感から苦手な野菜も「食べてみよう」と思うきっかけとなった。野菜栽培後より給食の苦手もよく食べるようになり、残飯もほとんどなくなった。
野菜を栽培することで自然と食への興味や関心にも繋がったので良かった。
今後も子どもの「どうやって出来るのかな」という疑問を大事にし、栽培する環境を作っていきたい。